

DRAMA かながわ

《神奈川県演劇連盟》 ★横浜市中区福富町西通り 52 Tel.045-261-4866

過去最大規模の 神奈川演劇博覧会



2008年3月
20日(木・祝)
22日(土)
23日(日)
青少年センター・
多目的プラザ
実行委員
織田 裕之
(劇団麦の会)

過去最大規模の第5回神奈川演劇博覧会

会場を青少年センターに移して2度目の神奈川演劇博覧会は、参加14団体、延べ観客数2,200名と過去最高を記録し、神奈川演劇連盟の看板イベントになったと言っても過言ではないだろう。

実行委員長は前年に引き続き劇団蒼生樹の関口素実氏が勤め、その経験をいかんなく発揮した。

出演は、県演劇連盟からかに座、G/9-Project の2劇団。前年に引き続きの出演は、即興芝居のライト・トラップにThe新茶。演劇博覧会2度目で青少年センターは初の出演、パ

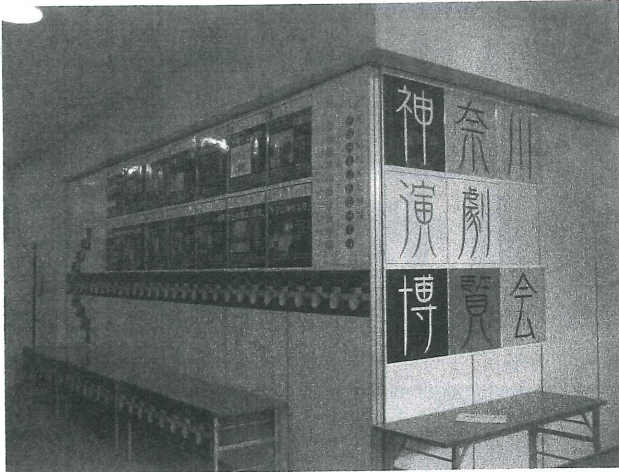
ントマイムの郷マイムプランニング。そして初出演は劇団ムゲン88、演劇プロデュース「螺旋階段」、演劇集団カナブンズ、風雲かぼちやの馬車、KTMR キッチンシアター、劇団くろひげ、劇団雑貨屋まんぼろ、劇団「無題」、劇団 T-Cob、以上個性的な14劇団が一堂に顔を揃えた。

抽選で出演劇団を決める

今回の演劇博覧会は当初10劇団程度で開催する予定だったが、21劇団の応募があり、少しでも多くの劇団に出演してもらうため、祝日も含む3日間14劇団28公演の予定

を組み、抽選で出演劇団を決めるという初の試みで1度目の実行委員会に挑んだ。

公平に抽選を行なった結果、連盟所属の横浜小劇場も抽選から漏れるなど、出演に至らなかった劇団には残念ではあったが、前出の劇団が今年度の演劇博覧会の出演を決めた。



そして、出演14劇団で実行委員会が構成され4ヶ月にわたる過去最高の規模の演劇博覧会開催への道が始まった。

演劇博覧会を成功させる唯一の力は、出演者と主催者である神奈川演劇連盟の情熱に他ならない。

なんとと言っても、その力の主力である出演劇団のすべてが協力的で、出席者も多く毎回実行委員会は盛り上がった。出演経験のある参加者は昨年の問題点などを具体的に提案するなど開催に大変役立ったのも事実である。

1月には懇親会を開きほとんどの劇団から多数の参加者があり、そこで感じた熱は成功への手ごたえを得るのに十分だった。

出演者は揃った。青少年センター多目的プラザという素晴らしい会場もある。尊敬すべき有能な青少年センターの舞台スタッフのバックアップもある。

問題は全ての劇団の照明と音響、そして舞台全般をまとめる技術スタッフだが、舞監と照明を河童座の岩上氏、音響を実行委員長との兼務で、蒼生樹の関口氏が務める事に決定、具体的に動き出した。

色々な面で成功

幕の開いた演劇博覧会は私の期待以上のものだった。限られた条件の中、創造力に富み、若々しくとても魅力的で、見習うことが多かった。

彼らもまた、それぞれ職業をもち限られた時間や環境の中それぞれの舞台を作っている。

いわば熟年をむかえている演劇連盟所属劇団も、ここから学ぶものは多いと思う。

今年の演劇博覧会は盛況のうち幕を閉じた。色々な面で成功だったと言って過言ではないだろう。

しかし、大切なのは今後である。演劇博覧会は何を目指すのであろう。ひとつのテーマである「演劇の普及」はアンケートからも効果のあった事が伺えた。

どうかかわって何を得るのか。我々のおかれている状況を変えるひとつのファクターである事は間違いない。

是非、来年は演劇連盟からたくさんの人にかかわってもらいたい。そして、このイベントを神奈川の演劇の将来のためにも成功に導いてほしい。

出演者は演劇博覧会に出演して何を感じたのか。劇団T-cobの村越氏に寄稿して頂いた。

「演劇博覧会、万歳！」

今回、初めて演劇博覧会に参加させていただきました。子どものような弱小アマチュア劇団が、青少年センターホールにて公演を打つことができたのは実行委員会をはじめ、多くの方々の多くのお力添えゆえでありました。勉強させていただくことが本当にたくさんありました。ありがとうございました。

さて、自分たちの公演はさておき、このような企画があることは芝居好きには御の字です。

短時間でいろいろなジャンルの芝居に触れることができ、さまざまな刺激を受けられます。

芝居に携わっていると、時に、芝居に迷う時があります。何故続けているのだろうか…、これが表現したい芝居なのか…。悩むために芝居をやっているのではなからうか、と思ってしまう(笑)。そんなとき、演劇博覧会が必要なのです。「何でも良いのだ、そこに「何か」があれば！何を感じるかはお客さんの自由なのだ。」と納得できるのです。…言い訳に聞こえますか？(汗)。

ともあれ、青少年センターホールに足を運んでくださった延べ2000名の方々が、今日も元気で幸せて、いつか「あんなとこ行ったよね。」なんて話題に出たら、私は果てしなく幸せてです。

貴重な体験をさせていただきまして本当にありがとうございました。

来年もぜひぜひこの素晴らしい企画を続けてください。

(劇団T-COB MIKIKO)

<アンケートより抜粋>

★23日★

20日に来てみたら、とても面白く、へー演劇って楽しいものだと思います。それで、じゃ23日も行って見ようと、来てしまいました。今まで演劇を観ようとも思っていませんでしたが、今回来て観て、嬉しくなりました。実にいい。集中してジッと観てしまいました。茅ヶ崎市文化会館で演奏会のとき、ぐうぜん目にしたのが、演劇博覧会のパンフレットでした。どの劇団がどうのこうのではなく、とにかく演劇を楽しむ事が出来たのが良かったです。劇団がこんなにも数多くある事すら知りませんでした。今回の様に時間が合えば、足を運んで見たいと思うようになりました。楽しい人生、まさしく桜満開ですか。

★22日★

横浜で頑張っている劇団がこんなにあるんだ、まだまだ他にもあるんだと感激しました。それぞれの劇団のそれぞれの個性や、芝居への情熱、素晴らしいです。今後もいろんな劇団の公演に足を運びたいです。今回の神奈川演劇博覧会のお陰で私自身も頑張る勇気を貰えました。こんな時代、こんな世代に演劇が心から心へ伝えるべきパトンは無限にあると思います。これからも全劇団の皆さんを心から応援しています。心からの拍手を送ります。

高校生のための **無料**

芝居塾

申込みはFAX用紙または電話で！5月2日締切
お問合せ・お申込：県立青少年センター企画課
Tel 045-263-4475 FAX045-241-7088

★劇団と一緒に芝居を作ろう★
場所：県立青少年センター
期間：5月17日～8月24日
月5～6回（主に土曜、日曜 公演前は増えます）
公演日：8月23日（土）、24日（日）
役者・スタッフいずれも経験豊かな劇団員・
青少年センタースタッフが丁寧に教えます
内容：ガイダンス、演劇の基礎トレーニング
エチュード、メイク実演、本読み
本番に向けての稽古
舞台、照明、音響のワークショップ
舞台装置製作

芝居塾に向けての意気込み

文責：G/9-Project 佐藤典久

芝居塾、この企画の内容と意図を聞いたときとても良い企画だと思った。しかしこんなに良い企画なのに誰もやりたいと手をあげていないと言う話を聞いた。“もったいない…”。それならばうちの劇団が手をあげた。高校生と一緒に芝居を作る。彼らは何を知りたくて、どんな経験をしたくてやってくるのだろうか。また私たちはそんな彼らと何が出来て、そんな彼らに何を伝えられるのだろうか。想像するだけでワクワクする。

そしてふと頭の中に浮かんできた言葉は…『熱』。そうだ！熱だ！熱を伝えよう！芝居という作品作りを通して熱を伝えよう。無関心と自己中がはびこり出し、夢を忘れ殺伐としたこの時代に何かを作る事によって得られる楽しさと喜びを教えてあげよう。想像…というか妄想が加速してゆく。

まずは何から始めよう？ふと以前やった合同公演を思い出す。『あの空の向こう』。県演連所属の各劇団の若手が集まって青少年センター大ホール改修前の最

後の舞台を飾ったあの公演を思い出した。

慣れない大舞台を任されるチャンスに恵まれ、不安に苛まれプレッシャーに押しつぶされそうになった参加者たち。でも劇団の垣根を越えひとつ旗の下集まった同士は頼もしい熟練の先輩方の力を借りて無事成功を収めた。あの現場には確かに熱があった。

年齢を超えた一体感や言葉では言い表せない熱さがあった。あの時感じた何かを、次につながる若者たちに伝えたい。

よし、じゃああの時と同じように垣根を取り払うことから始めよう。

そのためには受け入れるものが閉鎖的であってはいけない。よし稽古場を開放しよう。なるべく多くの人が作っている過程から見に来れる空間を作ろう。いつも活気と緊張感が漂う稽古場を作ろう！

…現段階では妄想だけど、そんな芝居塾を目指していきたいと今は考えている。

芝居塾

横田和弘

昨年立ち上げられた、芝居塾が今年も継続されることとなった。

素直に、昨年の実績が評価されたと思いたい。

青少年を対象としたこの企画は、青少年センターも力を入れてくれているように思われる。

事実、担当課や館長からもおおむね高評価を得て、2008年度だけでなく、共催としての価値も認められて将来的な話もでている。

規模としては、昨年と変わりなく、金銭としての補助はないものの、稽古場の確保・チラシ・ポスター・パンフ・道具作りとしての資材等々は、青少年センターが支援をしてくれることとなっている。さらに、入

場料を取っての公演として認められている。

しかも情宣活動についても、バックアップされることであるし、制作的には十分な公演となると思われる。

すでに、今年の担当劇団の、G9/プロジェクトもレパトリーの候補の絞込みに入っている。センターの公募も始まっている。昨年の応募者は、偏らず多くの学校からの参加者が集まりレベルも高かったように感じた。

5月の顔合わせが予定されている。

今、改めて芝居塾の可能性や意義を語るつもりはないけれども、熱き高校生達との芝居創りが、毎年の恒例行事になるよう期待したい。

第5回神奈川県演劇連盟合同公演報告

報告 劇団蒼生樹 勝碯 若子

- 日時:2007、12/21(金)~12/23(日) ●場所:神奈川県立青少年センター大ホール
●担当劇団:劇団 蒼生樹 ●演目:「からくり栗工門」

1 経緯

2005年県立青少年センターリニューアル後の資料室開設を第一弾とした、センターと県連との友好関係に基ずく、年1回大ホールを使用しての県連合同公演開催の二番手として河童座さんに次ぐ蒼生樹公演が2006年9月に決定。以来自劇団の公演に追われながら話し合いを続けました。問題あり・・・

- 1 座員の減少・高齢化
- 2 12月は髻物上演としている座のコンセプト
- 3 脚本作成・・・現在の座の状況で上演可能な既成髻物脚本は皆無
- 4 大ホールでの集客不安

手を挙げた以上なんとしても成功させ、好条件の大ホール使用を失う訳にはいかない!

脚本作成を早めにした。合同公演なので客演は広く依頼可能との基本方針をたてる。そこで、県連理事長であり河童座代表の横田氏に脚本を依頼したところ、心良く承諾を得る。2007年7月に仕上げて下さるも、当劇団の勝手により(ドラマ神奈川第49号誌上掲載)上演断念。

そこからが難行、座長が執筆宣言するも待てども待てども仕上がらず、業を煮やした座員がストーリーを組み立て古参座員の清水が脚本に作成。客演(藤島、鈴木、神島、石井、中村、城戸、光)さんを拝み倒し10月末よりやっと稽古開始いたしました。心臓に良くない綱渡りの経緯です。

2 取り組み

●制作

1998年15周年記念公演「アリーテ」は同じ青少年センター大ホール公演。でも、この年1回公演にし、全精力を傾けての集客と違い不安大! 県連各劇団に協力要請し、各劇団の観客にも声を掛けて戴く事とし、チラシ、チケットを配布させて戴きました。

●創造

センター大ホールの機構を全部使用してみたいとの思いから、廻り舞台、花道、せり、を芝居の中で使う演出とする。

●仕込み・バラシ

県連各劇団・センター職員の前面協力のもと、一番大変な舞台全面のパンチ敷き・吊り物等もありながら、予想以上に短時間で仕上がりました。

●打ち上げ

河童座・かに座・葡萄座・ささく座の有志にも参加戴き、3回公演で900名以上との事で大入袋を贈呈し、和気あいあい美酒を飲む事が出来ました。

その際公演パンフレット中に河童座代表の横田氏に対し礼を欠いた文章が問題となり(制作担当のパンフレットチェックの時間不足が大いなる責任)ドラマ神奈川紙上に謝

罪文掲載を確約する。

3 詳細報告

●客演参加

劇団川崎演劇塾、劇団横綱チュチュ、劇団ひこばえ

●仕込バラシ

参加: 劇団河童座、劇団かに座、劇団葡萄座、劇団麦の会、劇団ささく座、京浜協同劇団

●受付参加

横浜小劇場、劇団かに座、劇団葡萄座、劇団麦の会、劇団横浜にゅうくりあ、劇団横綱チュチュ、劇団ささく座、京浜協同劇団、劇団川崎演劇塾、劇団河童座

●観客動員総数: 921名

4 反省

各劇団の協力が充実、心強く思うと同時にこの合同公演形式が認識、浸透して来たとの確信を強くもちました。また青少年センターへも、県連の総力をアピール出来た事は大変喜ばしい事です。

センターの大ホールの機構を全て活用した事は、県連各劇団が大ホールを使用する際の参考となったのではないのでしょうか。

クォリティ的には、問題がなかったとは云えず、作品仕上がりまでの時間の無さ、粗さは痛感! しかし、無事次回のかに座さんへバトンタッチが出来、安堵しています。

観客感想文より

とても楽しかったです。2時間があっというまでした。こんな長屋に住んで見たいです。(20代女性)

ユーモアがあり面白かったです。どんどん値上げしていく現在、生活しやすい世の中になって欲しいものです。弱者の立場に立った政治を望みます。年の瀬にふさわしいあったかいお話で楽しませて頂きました。(50代女性)

いつも楽しみにしています。マゲ物! 世の中のまつりごとが、庶民に目を向けるような「からくり」があったらと思います。でも夢を見て、やっぱり自分達の手(力)でやるしかないか、そんな事を思いました。(50代男性)

楽しいひとときでした。自然体に感ずる演技、心が和みました。人の和の大切すばらしかったです。これからも、人の心を動かし、考えさせ、幸せになる演劇をみせて下さい。五感を動かされました。(60代女性)

観劇記

劇団こゆるぎ座 Shinly

時は江戸、とある長屋の井戸端でおかみさんたちのいつもの会話が聞こえてくる。からくり師「栗エ門」のいまひとつ実用的でない可笑しい発明品の数々や、長屋の住人のひとり長兵衛が博打がもとで膨らんだ借金50両を返す目処がつかない話である。からくりとはおなじみのお茶を運ぶ人形などのことであるがどうもこの栗エ門とやらのからくりは発想と実用が伴わないらしい。そんな栗エ門にとあるチャンスが訪れる。からくり比べに勝てれば借金と同額50両が手に入るといふ。栗エ門は長兵衛とおひさのためにと奮闘するが敢無く優勝は逃してしまうのである。そこからがどんでん返しで、優勝したからくりよりも主催者を喜ばせた栗エ門のからくりに思わぬ褒美が舞い込むのである。

物語の筋立ては展開が判りやすく人情ものとしては良い仕上がりである。時代劇という時代考証に拘りがなく世相時勢の話題を盛り込み観客の笑いを誘っていた。

しかし他に笑いを誘う手立てはなかったのだろうか？役者の個々の技量には申し分なく歯切れも良く個性も充分で巧みな台詞や愛嬌や役者の間によってつつい笑ってしまうという場面が多々あって充分面白い。

だから尚更笑わそうと仕組まれたものは必要なかったのではないだろうか？

栗エ門が創りあげた何年も笑えなかった少女の笑顔を取戻した「からくり」が「お尻かじり虫」というのは残念な気がしてならない。

更に観劇したのが初日であったためかもしれないが、衣裳が「着物に見えるもの」的であり、場が進むにつれ着付けも着崩れて役者がはだけた裾を抑えたりという仕草が目についたり、開幕前に拍子木の試し打ち(?)が音漏れしていたり中央よりの席でも転換前の合図の拍子木打ちが見切れたりという粗がやや気になった。

とは言え、開幕の拍子木のあと威勢良く流れてきた洋楽に意表を衝かれた時点でかなりバラエティ性を感じさせ気楽に観れる芝居だと観客の肩の力を抜くという演出だったのかと振り返りつつ、帰路口ずさむ歌が「お尻かじり虫」であったのはまんまと惹きこまれていた証拠か(笑)今年の芝居見物納めの1本、いい芝居だった。

観劇記

劇団蒼い群 村田次郎

サンバのリズムで元気良く始まるころ等はNHKの公開番組「お江戸でござる」を思い出してしまいました。

からくりを作っても完成する頃には時間が掛り過ぎててどうにも役に立たなくなる代物ばかりを作ってしまう栗エ門ではあるが、今回は自分を親身に育ててくれた長屋の長兵衛親娘の借金返済のためにも、からくり大会で一等になり賞金五十両を獲得するのだと頑張っていたのだが.....。今回も残念ながら一等にはなれませんでした。しかし、主催者の孫娘さくらが栗エ門のからくりを見て10年ぶりに笑ったということで、主催者である越後の旦那からお礼に酒、米俵10俵と金50両をもらうことになった。その思いもしなかったお金で栗エ門は長兵衛の借金を払ってやり、親娘を窮地から救い出すことができました。娘のおひさとも結ばれることになりそうだし、めでたしめでたしとなるストーリーでした。

観劇をして感動するタイプには二種類あると思う。一つは自分だけが感じるもので、するどく研ぎ澄まされたものであり、もう一つは他の観客と一緒に大ききうねりの中で感じることであると思う。どちらも作者や演出家や役者にだまされてのことである。今回のお芝居は後者の趣きが非常に強いがうねりを感じるまでいかなかった。

でも活気のある江戸庶民、特に長屋の人たちの生きている世界はこうであろうと感じることはできた。

しかし、もっと葛藤が、憎しみが、恨みが、妬みがこもっていても良かったのではないのでしょうか。今いろんな事件が世の中を騒がしているが、そのからくりがいまひとつ掴みにくい。それは私の中での葛藤がいまひとつたりないからなのですが、お芝居にその怒りの矛先を観客として求めている私自身がいるのも事実でした。

でも楽しいあつという間の時間でした、ありがとうございました。



ポスター展の準備（ボランティア）にご協力ください

今年9月に青少年センターで神奈川県演劇連盟と青少年センター共催「演劇ポスター」を開催します。

展示するポスターは横浜演劇研究所が半世紀に亘って収集した国内・海外の秀作ポスターです。収集ポスターのほとんどがわが国では唯一保存のものであります。

研究所の保管スペースが十分でないために永年ほこりをかぶって山積みされていたものです。かなり破損のはげしいものもあります。



このポスター展を機会に埋もれていた宝にひかりをあてて資料として整理、保管をできる体制を作りたいと考えております。

青少年センターには展示用パネルをすでに購入していただいております。

演劇資料室のポスター吊り下げ用のレール・チェーンが取り付けられていますのでポスターの常設展示も行います。

この事業のためにボランティア協力いただける方を募集しております。

事業は、**2008年3月5日**から開始いたします。参加者は演劇資料室荒井までご連絡ください。

ご協力おねがいします。

外国名作戯曲の新訳・改訂新版を増やします

「演劇資料室」には世界の名作戯曲（集）を多数所蔵しております。

これらの戯曲（集）の多くはかなりの年代物の本です。

大正期から昭和30年代前半に刊行された戯曲（集）は旧字体・旧かな遣いで翻訳文体も現代人の目には古色蒼然たる趣があります。

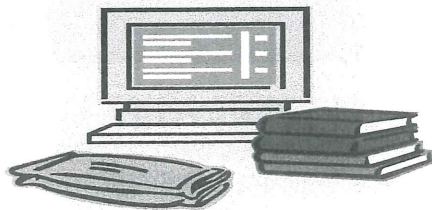
坪内逍遙訳のシェークスピア全集（沙翁全集）は名訳として名高いのですが、逍遙訳で「ハムレット」を通読するにはかなりの努力が必要です。わが国に西欧戯曲が明治20年以降奔流のように紹介されてきましたが作品が英語、ドイツ語、フランス語以外の言語で書かれている場合、多くは原典から直訳ではなくこれらの三カ国語を通して重訳で紹介された例が多くせりふの微妙なニュアンスが欠落した訳もあります。

ノルウェイの作家イプセンやスウェーデンの作家ストリンドベリの作品には重訳で紹介されたものが多い。現代では北欧、東欧諸国の演劇研究者により原典より直接訳の戯曲が相次いで刊行されています。

資料室ではご利用者が名作戯曲を楽しみながら読んでいただくために順次新訳・新版の収録につとめます。

勿論、古い訳本にも重要な価値があります。明治大正期の訳本と現代訳との対比することでひとつの戯曲がわが国にどのように受容され消化されてきたかわかります。資料室の役割は現代人が戯曲に親しめる本を整備してゆくこととともに通常であれば古い過去の本として忘れ去られる運命の図書に光りをあててこれを未来に継承することが重要なしごとといえるでしょう。

[新規受入の改訳・新訳/改訂本] 海外の戯曲



「ひばり ジャン・アヌイ I」

岩切正一郎訳

ハヤカワ演劇文庫 早川書房 2007.09 刊

「しらみとり夫人・財産没収ほか テネシー・ウィリアムズ」

鳴海四郎・倉橋健訳

ハヤカワ演劇文庫 早川書房 2007.01

「おかしな二人 ニール・サイモン I」

酒井洋子訳

ハヤカワ演劇文庫 早川書房 2006.09

「サンシャイン・ボーイズ ニール・サイモン II」

酒井洋子訳

ハヤカワ演劇文庫 早川書房 2006.09

(ゲーテの戯曲は上記の3冊でほぼすべてを収録)

「セールスマンの死 アーサー・ミラー」
倉橋健訳
ハヤカワ演劇文庫 早川書房 2006.0
「鎖を解かれたプロメテウス」
シェリー作・石川重俊訳
2003.10 改版

「肝っ玉おっ母とその子どもたち」
ブレヒト作 岩淵達治訳
岩波文庫 岩波書店 2005.04

「オルメードの騎士」
ロペ・デ・ベガ作 長南実訳
岩波文庫 岩波書店 2007.08 新刊

「夜の来訪者」
ブリーク作 安藤貞雄訳
岩波文庫 岩波書店 2007.02 新刊

「ワーニャ伯父さん ベスト・オブ・チェーホフ」白水 U ブックス
アントン・チェーホフ作 小田島雄志訳
白水社 1999.0

「かもめ」ベスト・オブ・チェーホフ」白水 U ブックス
アントン・チェーホフ作 小田島雄志訳
白水社 1998.12

「恋の火遊び・令嬢ジュリー」
ストリンドベリ作 内田富雄訳 中央公論事業出版 2005.01

「死の舞踏」
ストリンドベリ作 毛利三弥訳
オンデマンド出版 <リキエスタ>の会
2001.04

「債鬼 他四篇 昭和初期世界名作翻訳全集 21」
ストリンドベリ作 森鷗外訳
復刻版 ゆまに書房 2004.05 復刻

「素晴らしい靴屋の女房 ロルカ名作戯曲選」
フェデリコ・ガルシア・ロルカ作小海永二訳
竹内書店新社 1997.04 (表題作のほか「血の婚礼」「老嬢
ドニャ・ロシータまたは花の言葉」の二編を収録)

「ゲーテ全集 3(戯曲)ファウスト」
ゲーテ作 山下肇訳
潮出版社 2003.05 改訂新版

「ゲーテ全集 4(戯曲)ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン」
ゲーテ作 中田美喜訳
潮出版社 2003.10 新装普及版

「ゲーテ全集 5(戯曲)タウリスのイフィゲーニエ」
ゲーテ作 辻理訳
潮出版社 2003.10 新装普及版

「イプセン戯曲選集 現代劇全作品」
イプセン作 毛利三弥訳
東海大学出版会 1997.11
(イプセンの戯曲のうち主要な11作品を収録)

「チャペック戯曲全集」
チャペック作 田才益夫訳
八月社 2006.11
(チャペック兄妹(カレル/ヨゼフ)共作3編、カレル・チャペ
ック単独作5編を収録 チャペック戯曲の全貌を伝える)

「ピランデッロ戯曲集 1~2」
ルイーダ・ピランデッロ作 白沢真雄訳
新水社 2000.02-4 (ピランデッロ戯曲の全貌を伝える
2冊 8作品収録)

「ブレヒト戯曲選集 1~8・別巻」
ベルトルト・ブレヒト作 岩淵達治訳
未来社 1998.03-2001.01 (ブレヒトの全戯曲の最新訳 岩
淵達治、畢生の個人全訳)

「マリヴォー戯曲選集」
マリヴォー作 佐藤実枝編訳
早稲田大学出版部 2006.10 (マリヴォーの代表作6作品と
訳者の「マリヴォー劇への招待」を収録)

「オルメードの騎士」
ロペ・デ・ベガ作/末松氷海子訳
岩波書店 2004.12

「ヴォイツェク ダントンの死 レンツ」
ビューヒュナー作/岩淵達治訳
岩波書店 2007.11

「ハムレット・マシーン:シェイクスピア・ファクトリー」
ハイナー・ミュラー・テキスト集1
ハイナー・ミュラー著/岩淵達治・谷川道子訳
未来社 1992.8

「メディアマテリアル:ギリシア・アルシーヴ」
ハイナー・ミュラー・テキスト集2
ハイナー・ミュラー著/岩淵達治・ほか訳
未来社 1993.4

「カルテット:ミュラー・コンテンポラリー」
ハイナー・ミュラー・テキスト集3
ハイナー・ミュラー著/岩淵達治・ほか訳
未来社 1993.4

「バルコニーの情景」
ドイツ現代戯曲選 30
ジョン・フォン・デュッフエル著/平田榮一朗訳
論創社 2006.9